

雜報

●會員敘任及辭令

八級俸下賜

朝鮮總督府道慈惠醫院醫官

沖津 亘

(十二月二十八日)

佐世保海軍病院附海軍軍醫大尉

佃 卓三郎

免本職補北上軍醫長兼分隊長

(二月二十日)

敘正七位

從七位勳六等

高橋 昌夫

敘從七位

正八位

黒木 武一

敘從七位

正八位

大岩 博雅

(二月二十日)

任岡山醫學專門學校教授

原 正平

敘高等官六等

岡山醫學專門學校教授正六位

田村 於 兎

陸敘高等官三等

岡山醫學專門學校教授

原 正平

(二月二十一日)

敘從三位

正四位勳三等

筒井 八百珠

岡山醫學專門學校長正四位勳三等

筒井 八百珠

特旨ヲ以テ位一級被進

岡山醫學專門學校長正四位勳三等

筒井 八百珠

陸敘高等官一等

(二月二十八日)

陸軍三等軍醫正

松井 篤治

豫備役被仰付

(二月一日)

陸軍三等軍醫

須之内 權三

依願豫備役被仰付

海軍軍醫少佐

江木 健三

休職被仰付

舞鶴海兵團附海軍軍醫中尉

長谷川 靜一

免本職補第三艦隊司令部附

(二月十日)

大阪衛戍病院附陸軍一等軍醫

柴 英雄

免本職補第四師團軍醫部部長

步兵第七十九聯隊附兼龍山陸軍兵務支廠附陸軍一等軍醫

平川 龍造

免本職並兼職補第二十師團軍醫部部長

野砲兵第二十三聯隊附陸軍三等軍醫 吉永義雄  
免本職補步兵第六十七聯隊附

東京帝國大學教授 相馬又二郎  
(二月十二日)

依願免本官

(二月十七日)

安藝軍醫長兼分隊長對馬軍醫長分隊長海軍軍醫少佐 那須四郎  
免兼對馬軍醫長分隊長  
(二月十九日)

勲等 賜金 陸軍官等位勲功 氏名

二七〇 一等軍醫從六位勲六等 小金井拙夫

勲等 賜金

瑞五等 五〇〇 一等軍醫正七位勲六等 下瀬政三

瑞六等 六〇〇 三等軍醫從七位 田邊貞一

瑞五等 五〇〇 一等軍醫正七位勲六等 松原愛次郎

勲等 賜金 海軍官等位勲功 氏名

瑞四等 六五〇 軍醫少佐從六位勲五等 矢野環

●學位授與決定 岡山醫學專門學校教授原正平、南滿醫學堂教授岩野俊治、臺灣總督府醫學專門學校教授久保信之、日本赤十字社和歌山支部病院內科醫長菅忠芳の四君は豫て京都帝國大學醫學部に論文を提出し學位を請求し居られしか今回教授會を通過し醫學博士の學位を授與せらるゝことに決定したり其の畧歴及び學位請求論文は左の如し

原正平君

大正元年京都醫科大學を卒業、大正二年一月京大醫學部副手を囑託し附屬醫院內科學教室に勤務、同年十月京大產科婦人科教室に勤務、四年二月京大助手を拜命、五年二月より三重縣四日市市木村病院產婦人科部長に就職、六年五月京大大学院に入學し產婦人科及藥物學に關する事項を專攻す本年一月岡山醫學專門學校教授に任ぜられ今日に至る

主論文

Experimentelle untersuchungen ueber die Wirkungsweise des Otolats Zitrals und Tostrats.

參考論文

- 1. Ueber die ausscheidung der aromatischen Oxydsuren bei verschiedenen Krankheiten mit besonderer Berücksichtigung bei Nephritiden.
- 2. 生體ニ於ケル家兎子宮ニ對スル藥物ノ作用ニ就テ及抽出子宮トノ比較研究

三、モンアルヒ氏驅血法ノ子宮ニ及ボス影響ニ就テ

四、内分泌腺鰵鱒或ハ製劑ノ滑平筋臟器ニ對スル作用ノ研究(第一報告) 膈下垂體鰵鱒ノ雌性生殖器並ニ腸管ニ對スル作用ニ就テ

五、「ヨカイン」ト「カリウム」鹽類トノ伍用ガ知覺並ニ運動神經纖維ニ及ボス影響ニ就テ

六、種々ナル藥物ノ伍用ガ知覺並ニ運動神經纖維ニ及ボス影響ニ就テ

### 岩野俊治君

明治三十六年十一月岡山醫學專門學校を卒業し三十八年十月臺灣臺北醫院に勤務、四十年十月南滿鐵道官社に入り大連醫院勤務を被命、四十一年三月同社より獨逸國へ留學を命ぜられミュンヘン醫科大學生理學教室に於て醫化學及生理學を研究し四十五年三月歸社直ちに南滿醫學堂教授を被命今日に至る

#### 主論文

鐵ノ新陳代謝ニ關スル肝臟及ビ脾臟ノ機能ニ就テ

#### 參考論文

一、「アドレナリン」注射及膝臟摘出ガ肝臟及筋肉ニ及ボス影響ニ就テ

二、蠅毒ノ化學性質ニ就テ

三、Zur Konstruktion von Eroscherzapparaten, von Shunji Iwano.

### 久保信之君

明治三十四年十一月岡山醫學專門學校を卒業し同校助手を命ぜられ病理學教室に勤務、三十六年十二月同校助教教授に任せらる、三十九年十二月

臺灣總督府醫學校助教教授に任せらる、四十四年三月獨逸國に留學を命ぜられウルツブルグ大學病理學教室に於てクレツツ教授に就き病理學を學び、後シュンヘン大學に轉じ法醫學教室にてリッター教授に就き法醫學を研究、埃及を経て大正元年十二月歸朝、二年九月臺灣總督府醫學專門學校教授に進み今日に至る

#### 主論文

「黒水熱發病論」(動物試驗的並病體解剖的研究) 追加「續黒水熱發病論」(動物試驗的並病體解剖的研究) (一瀬民雄、伊波普助共著)

#### 參考論文

一、「ベスト」ニ於ケル骨髓ノ病變

二、「アメーバ」性赤痢ノ病理及病理解剖

### 菅 忠芳君

元岡山醫學專門學校長醫學博士菅之芳君の令息にして明治四十四年十一月京都醫科大學を卒業し四十五年一月醫化學研究の爲め京都帝國大學大學院に入學荒木教授の指導を受く大正二年二月同醫科大學副手となり醫化學教室に勤務、同年九月大學院在學の儘醫化學研究の爲め獨逸國に留學を許可せられ渡歐せしも歐洲戰亂の爲め同三年十一月歸朝、四年二月京都醫科大學副手を囑託せられ内科教室に勤務、尙ほ大學院に於ては佐々木教授の指導を受け後中西、島岡兩教授の指導を受く同八年五月依頼副手を解囑せられ後日本赤十字社和歌山支部病院内科醫長に就任し今日に至る

## 主 論 文

Ueber den Einfluss der Brenztraubensäure auf die experimentelle Acidosis unip Glycosurie.

## 參 考 論 文

- 一、胃滯管チ有スル患者ニ就テ胃液分泌試験
- 一、飢餓セル鶏ノ體內ニ於ケル「オルニツール」酸ノ生成ニ就テ
- 一、肝臓輸血試験ニ於ケル「ブミン」酪酸ノ變化ニ就テ
- 一、Ueber die Darstellung eines Urase-Trockenapparates und ueber einige Eigenschaften der Soja-Urase. Von Prof. Dr. M. Jacoby und Dr. T. Suga.
- 一、脚氣患者ノ血液含糖量ニ就テ

## ● 會 員 動 靜

○北光三君 曩日渡歐せられたる同君は左記に寓居せられたり

Bei Stalder

Berna-str. 71

Bern

Schweiz.

○喜多島健磨君 は今般尾道市久保町小川産婦人科醫院に勤務せられたり

○渡邊九郎君 は今般高松市日本赤十字社香川支部病院外科に勤務せられたり

○須之内權三君 は今般和歌山縣新宮町驅徽院に勤務せられたり

○川野昇君 多年滿鐵病院に勤務し居られし同君は今般同院を辭し大連市壹岐町に於て開業せられたり

○中山俊雄君 は今般兵庫縣飾磨郡安室村辻井に於て開業せられたり

○川本健次君 は今般京都府葛野郡桂村に於て開業せられたり

○岡順二君 は豫て和歌山縣新宮町新宮病院に勤務し居られしが今回同院を辭し同町下本町に於て開業せられたり

○小澤清躬君 は豫て神戸市醫師會「ラヂウム」治療所主任として勤務し居られしが今般同所を辭し神戸市熊内橋通二丁目停留所前に於て開業し主として「レントゲン」科一般の診療に従事せられたり

○山谷徳治郎君 は本會第三十二回總會に出席の爲め本月十二日來岡せられたり

○谷 高三郎君 同上

○越智昇一君 同上

○折茂恒治君 同上

○矢吹 浩君 同上

○三上紀之君 同上

○徳岡 英君 同上

○佐藤孫市君 は今般三重縣員辨郡神田村に移轉開業せられたり

●東京通信 大正九年會在京部會を二月十二日夕神田小川町池國亭に於て開催す第一懇親會を兼ね供奉艦鹿島乗組の海軍軍醫少尉三宅正一君の渡歐送別會の宴を催す、席上岡山に於ける九年會と關聯し在京部會創立の議に就き種々協議する所あり。

杯盤頻りに巡りつゝ懷舊の佳話に耽り尙ほ三宅君の渡歐を祝しつゝ相會する者多數ならずと雖友愛の情藹然として一堂に滿つ、談笑益々熟し醉感愈々快にして歡盡くる

所を知らず、大正九年同憲會創立と三宅君の健康を祝し互に次會を期して會を終りしは十一時半なりき。

#### 右出席者

花室 慈章 逸見 銀三郎 野津 芳孝

佐藤 一衛 三宅 正一 新免 精

(因に上京中の石尾健次郎君は來會を約されしも事故の爲め其事なかりしは誠に遺憾なりき)

●役員會 既記の如く筒井本會々長は去月二十八日薨去せられたるを以て同日岡山醫學専門學校に於て急遽役員會を開き弔意方法に付き協議し靈前に花環を備へ弔慰金を贈ることを可決して散會せり

●「トラホーム」講習會 日本「トラホーム」豫防協會に於ては本年四月五日より同十二日まで第二回「トラホーム」講習會開催の豫定にて申込は來三月二十五日限りなりとの旨本會へも通知ありたり